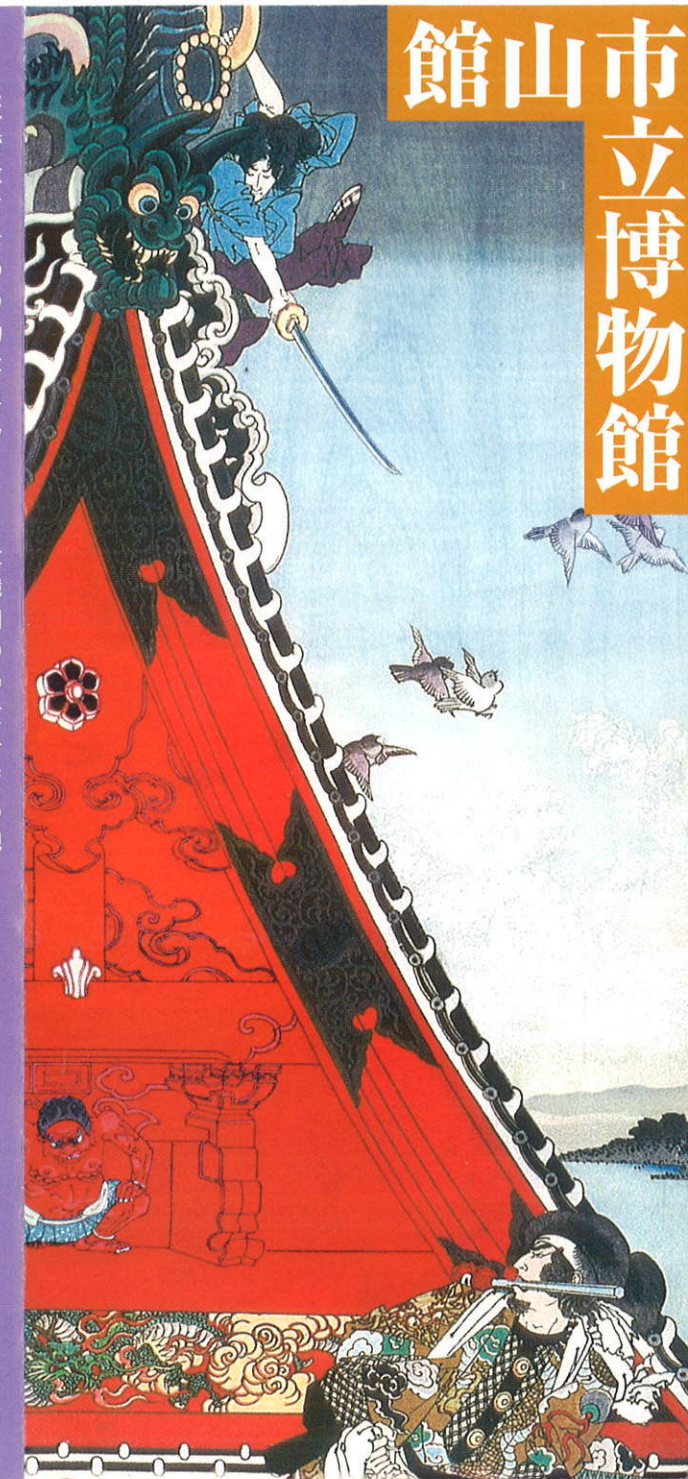


館山市立博物館



南総里見八犬伝

八犬伝は、中国の豪傑小説『水滸伝』の影響を色濃く受けた伝奇小説です。時代を戦国時代に求め、結城合戦以後、房総に入って勢力をのぼした里見氏の歴史を背景に、里見氏の娘伏姫ゆかりの仁義礼智忠信孝悌の霊玉を持つ八犬士の活躍を描いた架空の物語です。関東・甲信越地方を主な舞台とし、各地の伝説を取り入れた雄大な構想で、波乱曲折に富んだスケールの大きな作品です。

八犬伝の波紋

八犬伝は、第一輯の出版から大評判となり、「絵双紙」も各種競作されました。歌舞伎の上演も相つぎ、「武者絵」「役者絵」などの錦絵版画も多く作られて、原作の人気をさらにもりあげました。文芸にとどまらず、芝居や美術の分野にも大きな影響を与えたのです。また双六や麻の図柄にも好んで取り上げられ、多くの人々に親しまれました。

(表紙) 月岡芳年画「芳流戦馬雄動」(本館蔵)部分



大江親兵衛



大川狂助



大村大角



大崎元将



大山崎



大崎元将



大崎元将



大崎元将



大崎元将



八犬伝博物館



夢とロマンの八犬伝

館山城跡は、里見氏第九代義康・第十代忠義の城跡で、慶長19年(1614)忠義の倉吉(鳥取県)移封までの里見氏の本拠地であり、その最後の地です。

館山市は、この歴史ある城跡に八犬伝博物館(天守閣形式の博物館)を設置し、昭和57年10月31日に開館しました。建物の外観は、櫓に入母屋の大屋根をかけ、その上に小望楼を載せてあり、天守閣としては古い様式で、天正ごろの典型的な姿をしています。内部には、房総の戦国武将里見氏を題材にした『南総里見八犬伝』に関する各種の資料を展示し、江戸時代から明治、大正、昭和、平成と、本や芝居、テレビ、映画などで、多くの人々に親しまれた八犬伝のロマンを、浮き彫りにします。



『南総里見八犬伝』106冊

八犬伝と馬琴

『南総里見八犬伝』は、江戸時代の文豪曲亭馬琴がその後半生を傾けて著わした大作です。八犬伝の第一輯が出版されたのは、文化11年(1814)、馬琴47才のときです。そして、天保12年(1841)、28年の歳月を費やして、この大著が完成したときは、馬琴はすでに74才の盲目の翁となっていました。外に黒船の影が重くのしかかり、内に天保の改革の嵐が吹きあれるなか、全106冊という日本で最も長い、世界でも有数の長編小説が完成したのです。

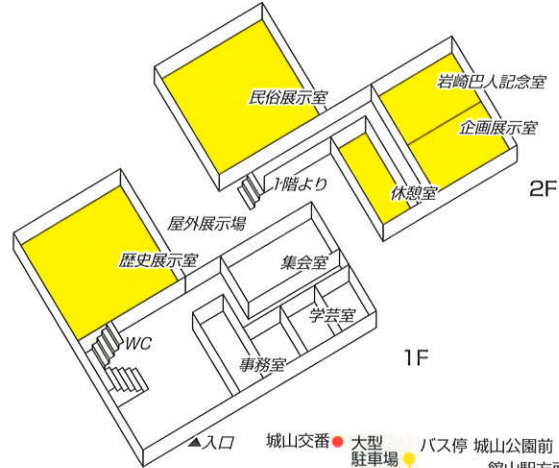


曲亭馬琴



辻村ジュサブロー作「伏姫」(NHKテレビ「新八犬伝」)

当館は、郷土館山を歴史と民俗の分野から研究、収蔵、展示する博物館として設置されました。多くの先人の足跡を保存し、より良い明日を創造するための市民共有の場としてご利用ください。



城山公園・博物館案内図



利用案内

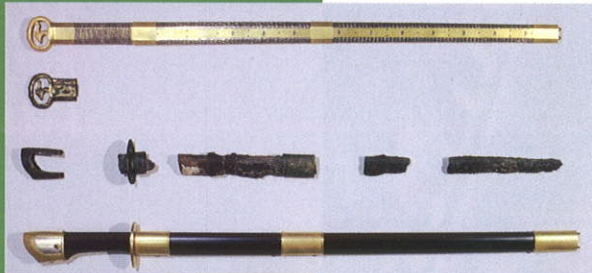
開館時間 午前9時～午後4時45分(入館は4時30分まで)
 休館日 月曜日(ただし、月曜日が祝日・振替休日のときは、開館)
 月曜日開館のときはその翌日 年末年始(12/29～1/3)
 火曜日が祝日の場合の月曜日は開館し、その祝日の翌日
 観覧料 小学生・中学生・高校生 150円(100円)
 一般 300円(250円)
 ()内は20名以上の団体料金
 特別展 別料金
 交通 JR館山駅→バス「城山公園前」下車
 JRバス「1番乗場」
 日東バス「館山航空隊行」
 無料駐車場あり(大型バス可)
 所在地 〒294-0036 千葉県館山市館山351-2 城山公園内
 TEL.0470(23)5212 FAX.0470(23)5213
 メール hakubutukan@city.tateyama.chiba.jp

歴史のあけぼの
—原始・古代の安房—

黒潮の流れのまっただなかに突出した房総半島に、人間が姿をあらわすのは3万年以上も前のことです。石を打ち欠いただけの石器を使用し、狩猟にだけくわっていた時代から縄文土器という世界最古の土器文化を形成します。



歴史展示室



館山市坂井翁作古墳出土環頭・圭頭大刀と復元模型

さらに米作りを覚え安定した生活ができるようになり、やがて強力な権力をもった豪族が誕生した安房にも、豊富な副葬品を伴ったいくつかの古墳がつくられるようになります。国の制度が徐々に整い律令体制のもと安房国分寺がおかれ、館山は安房国の政治・経済・文化の中心となります。

武家社会のはじまり

—中世の安房—

荘園を守っていた武士がしだいに力を持つようになり、源頼朝が鎌倉に幕府を開きます。

そのころ、安房国には、安西、丸、神余、東条などの豪族が勢力を持っていて、次の里見氏の時代になるまでの安房国を支配していたとされます。

また文化の面でも武家文化の中心地鎌倉に近いこともあり、様々な面で鎌倉の影響をうけて発達します。



水岡やくら(レプリカ展示)

里見氏の興亡
—戦国時代の安房—

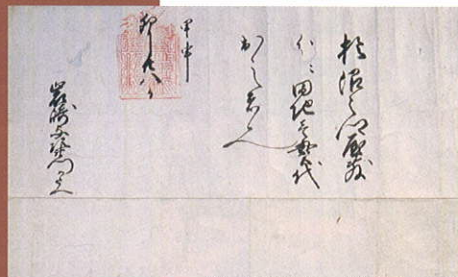
戦乱の世の中になると房総にも群雄が割拠します。なかでも里見氏が有力となり、房州の諸豪族をしいだいに家臣にしたがえ安房国を支配下におきます。里見氏は、戦国大名として成長を遂げ、一時は、下総にまで領土を拡大します。その後勢力範囲を変化させながら、江戸に幕府が置かれたあとも外様大名として安房を中心に勢力を維持します。幕府によって山陰地方に移されるまで、10代170年にわたって房総を支配しました。



歴史展示室



里見義弘奉納棟札(鶴谷八幡宮蔵)



里見義頼が商人に屋敷地を与えた朱印状(岩崎文江氏蔵)

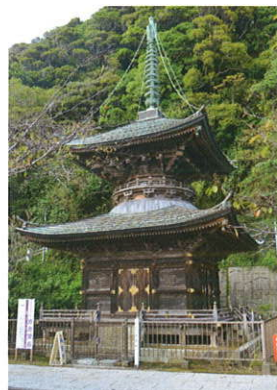
身分とくらし

—江戸時代の安房—

江戸幕府が開かれ、里見氏が没落したあと、海路江戸への入口という要地にあたる安房国は、譜代の小大名や旗本が支配するようになりました。

江戸時代の強い身分制度のもとでも村や町に住む人たちは、信仰や経済の面で盛んな活動します。

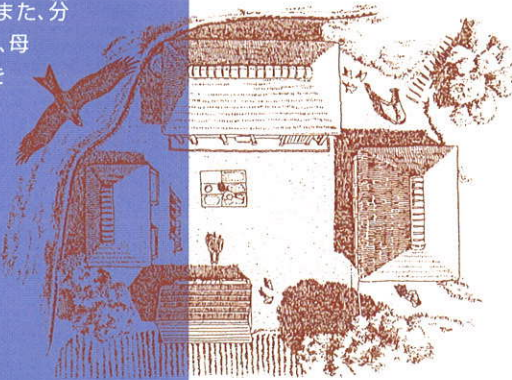
反面、領主の庄政に苦しめられると農民は自分たちの生活を守るため協力しあって立ち上がります。



多くの民衆の浄財をあつめて建立された館山市那古寺・多宝塔

民家とくらし
—安房の屋敷構—

この地方の昔の民家は、南向きに母屋を建て左に馬屋をかねた物置や長家門を、右に堆肥小屋を建てて、コの字型にする屋敷構が一般的です。また、分棟型といって、母屋から土間を切り離し、別棟とし、ロー力をつなぐ南方系とされる形式の民家も比較的多くありました。



民俗展示室

岩崎巴人記念室

日本画家 故岩崎巴人氏が、禅の精神にもとづいて描いた水墨画の世界を紹介します。(季節によっては、渚の博物館で展示します。)



岩崎巴人記念室

甲冑を着よう

日曜日・祝日にはミュージアムサポーターの「甲冑士」が甲冑を着せてくれます。ずっしりと重い甲冑を身につけていざ武将になりきってみましょう。



見学記念スタンプ

八犬伝博物館



本館

